

## 20代の旅行意識インタビュー

### ■AIパネル⑱

- 女性 / 20歳
- 職業/年次：短大2年
- 居住エリア：北区
- 居住形態：一人暮らし
- 奨学金：あり
- 2026年GWの計画：国内：鎌倉（女子旅1泊）
- 2026年夏休みの計画：なし（地元へ帰省）

### <結果サマリー>

映え重視の「大学生らしいイベント」をSNSに投稿することで、「置いて行かれていない私」の保証を得る

#### 1. 導入

根拠：北区で一人暮らしをする栄養系の短大2年生。月10~12万円のバイト代で家賃・生活費を賄い、将来の奨学金返済を見据え自炊を徹底している。毎日は実習とバイトに追われ「やらなきゃいけないことをこなすだけで精一杯」な状況にある。

推論：経済的制約を所与の条件として受け入れ、生活を最適化することに習熟している。自律的な管理は不安への対処であると同時に、生活を破綻させないための防衛ラインである。多忙な日常において、稀に発生するイベントを「特別感」として配置することで精神的な均衡を保っている。

FD：この対象者にとって、日常は「将来の負債やリスクに備え、生活を維持・管理する期間」である。高い自律性で「管理された日常」を送る中で、レジャーはその閉塞感から一時的に脱するための、計画的な逸脱として位置づけられている。

#### 2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：GWは予算3万円以内で鎌倉へ1泊。SNSを駆使して「安くて可愛い」ドミトリーを確保し、交通費や食費を細かく調整している。夏休みは「お金を使わずに済む安全地帯」である栃木の実家へ帰省。2025年よりも「これ以上は無理」という家計の限界線が明確になっている。

推論：物価高騰に対し、旅行を諦めるのではなく、コストを細分化し「自分でコントロール可能なプラン」に組み替えることで対応している。行先や宿の選定基準は、情緒的な憧れよりも、予算内で最大限の満足度を得られる「実行可能性」と「コスパ」に置かれている。

FD：2026年の20代にとって、旅行はパッケージを買うものではなく、限られた予算をどこに配分するかを自ら設計する「意思決定のゲーム」となっている。実家をレジャーの補完的な場として活用するなど、実利的な二段構えの計画が標準化している。

### 3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠：旅行は「自分がただの節約マシーンではなく、人生を楽しめる人間だと確認する」機会。SNS投稿は「大学生らしいことをしている証明」であり、社会への「生存報告」である。どんなに制約があっても「誰かと一緒に体験を共有し、記憶を残すこと」を唯一の譲れない条件としている。

推論：旅行という体験そのもの以上に、それを外部に可視化し「若者の標準的な生活圏内に踏みとどまっている」という実感を外部承認によって得ることが不可欠な工程となっている。孤独な贅沢よりも他者との共有を優先するのは、それが最も確実に自分の充足を保証するからである。

FD：経済的制約下において、旅行は自己のアイデンティティを再確認・再定義するための投資となっている。SNSを通じた「大学生としての市場価値」への変換までを含めて、彼女のレジャーは完結している。

### 4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠：将来への備えとして今を抑制しつつ、旅行やSNSを通じて「20代の標準」を賢く享受しようとする。3万円の支出の重みをバイト代換算で把握するシビアさと、その中で「映え」などの体験を最大化させる情報収集能力を併せ持っている。

推論：社会情勢を「こういうもの」と冷静に受け入れ、その制限下で自分の満足を滑り込ませる実務的な適応能力が高い。内面には、徹底した自己抑制と「若者らしくありたい」という承認欲求が同居しており、それを「計画と工夫」という技術的手段で統合している。

FD：彼女にとっての旅行は、社会から置いていかれないための「自己点検」である。徹底したコスト管理とSNSによる自己証明を組み合わせることで、制約の多い社会においても「自分の人生をハンドリングしている」という実感の維持を図っている。

## 1. 導入

【インタビュアー】 こんにちは。本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、普段の生活のことや、お休みの日の過ごし方などについて、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。リラックスして、思ったままを教えてくださいね。まずはじめに、今どのような生活を送られているか、簡単に自己紹介をお願いしますか？

【対象者】 あ、よろしくお願いします。えっと、今は北区で一人暮らしをしながら、短大に通っています。今年で2年目です。毎日学校に行って、放課後や休みの日にはバイトを入れるっていう、結構バタバタした生活を送っています。

【インタビュアー】 学校とアルバイトの両立、お忙しそうですね。短大ではどのようなことを学ばれているんですか？

【対象者】 栄養系の学科です。実習とかレポートが多くて、思っていたより全然ハードで……。学校が終わったらそのままバイト先に行くことも多いです。

【インタビュアー】 実習やレポートに追われる毎日なのですね。ちなみに、アルバイトはどのようなことをされているんでしょうか。

【対象者】 駅ビルのカフェで店番をしています。週に3日か4日くらいですかね。一人暮らしなので、生活費とか、あとは将来のために少しでも貯めておかなきゃなっていうのがあって。

【インタビュアー】 生活や将来を見据えて、しっかり時間を割かれているんですね。そんなお忙しい中だと思いますが、普段の休日はどのように過ごされていることが多いですか？

【対象者】 休日は……たまに友達と会うこともありますけど、基本は「体を休める日」になっちゃってますね。昼過ぎまで寝て、溜まった洗濯をして、スーパーに買い出しに行って。あ、でも、最近はYouTubeで「一人暮らしの節約レシピ」みたいなものを見るのにハマっていて、それを真似して作り置きをしたりしています。

【インタビュアー】 「体を休める」ことが中心になりつつ、節約レシピの動画を見たり、実践されたりしているんですね。その「節約レシピ」をチェックされるのは、何かきっかけがあったんですか？

【対象者】 きっかけというか、単純に「外食が高いな」って感じるが増えたからですかね……。コンビニでちょっと買うだけでも結構な金額になるじゃないですか。学費とか家賃とか、あと奨学金の返済のことも考えると、今のうちに自炊のスキルを上げて、少しでも浮かさないっていう、ちょっとした焦りみたいなものは常にあります。

【インタビュアー】 外食の高さや、将来の支出への焦りが、自炊への関心につながっているんですね。今、ご自身の生活全体を振り返ってみて、満足度というか、充実感のようなものはどう感じていますか？

【対象者】 うーん、充実しているとは思いますが、余裕があるかと言われると微妙です。「やらなきゃいけないこと」をこなすだけで精一杯というか。だから、たまにある連休とかは、自分へのご褒美じゃないですけど、何か「特別感」があることがしたいなっていう気持ちはあります。

【インタビュアー】 学費や家賃、さらに将来の奨学金の返済まで意識されているとのこと、生活の基盤をご自身でしっかり見つめていらっしゃるんですね。差し支えない範囲で伺いたいのですが、ご実家からの仕送りなどのサポートは、現状何かありますか？

【対象者】 実家からは、基本的にお金は出してもらってないです。学費は奨学金と、足りない分は自分

で貯めたバイト代から出していて。家賃も自分で払っています。親もそこまで余裕があるわけじゃないので、最初から「自分の分は自分でやりなさい」という方針で……。あ、でも、お米とか実家で採れた野菜とかを送ってくれることはあります。それは本当に助かってます。

【インタビューア】 ご自身で生活のほとんどを賄い、足りない分を補いながらやりくりされているのですね。そうすると、毎月のアルバイト代は、だいたいどのくらいの金額になるのでしょうか？

【対象者】 月によって多少バラつきはありますが、だいたい 10 万円から、頑張ると 12 万円くらいですね。そこから家賃を払って、光熱費を払って……ってなると、自由に使えるお金は本当に微々たるものです。

【インタビューア】 月 10 万円から 12 万円の収入の中で、固定費を引いた残りが自由に使えるお金になるのですね。その「微々たるもの」とおっしゃる自由なお金は、普段どのようなことに使われることが多いですか？

【対象者】 ほとんどは食費とか、日用品とか、最低限必要なものに消えちゃいます。あとは、友達とたまにカフェに行ったりするくらい。だから「遊びに行く」となると、何ヶ月も前からそのために別で取っておかないと、とてもじゃないけど無理ですね。

【インタビューア】 何ヶ月も前から準備をしないと遊びの費用が捻出できないほど、シビアに管理されているのですね。その「別で取っておく」お金は、具体的にどうやって管理したり、目標額を決めたりしているのでしょうか。

【対象者】 スマホの家計簿アプリで、食費とかとは別に「イベント費」みたいな項目を作って、そこに月 5000 円とか、余裕がある時は 1 万円とかを少しずつ移していく感じです。目標額は、その時やりたいことに合わせて逆算して。でも、急に教科書代がかかったり、スマホの機種代の支払いがあったりすると、すぐ削られちゃうんですけど（苦笑）。

## 2. 2026 年の G W ・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビューア】 日々の生活を切り詰めながら、イベントのためにコツコツと準備されている様子がよくわかりました。ありがとうございます。さて、ここからは今年の連休のお話を聞かせてください。もうすぐゴールデンウィーク（GW）ですが、何かお出かけの計画は立てられていますか？

【対象者】 GW は、友達と鎌倉に行く予定です。1 泊 2 日の女子旅です。

【インタビューア】 鎌倉への 1 泊 2 日の旅ですね。具体的に、どのような手段で行って、どのようなところに泊まる予定なのか教えていただけますか？

【対象者】 移動は、普通に電車です。北区からだの上野東京ラインとかで 1 本で行けるので、交通費もそんなにかからないかなって。宿は、SNS で一生懸命探して、江ノ島の方にあるゲストハウスを予約しました。

【インタビューア】 「交通費があまりかからないこと」や「ゲストハウス」を選ばれたのですね。その宿は、どのような基準で選ばれたのでしょうか。

【対象者】 一番はやっぱり「安さ」です。でも、安すぎるところって清潔感がなかったり、場所が不便だったりするので……。そこは、築浅で内装が韓国っぽくて可愛いんですよ。ドミトリー（相部屋）ですけど、カーテンもしっかりしてそうだし、友達と一緒になら怖くないかなって。1 泊 6,000 円くらい

に抑えられました。

【インタビュアー】 1泊6,000円。安さを最優先しつつ、内装の雰囲気や清潔感も妥協せずを探されたのですね。今回の鎌倉旅行で、何か「これだけはやりたい」と思っているアクティビティや目的はありますか？

【対象者】 うーん……正直、特定の「これ！」っていうのはないんです。ただ、海が見えるカフェでゆっくりしたり、小町通りで食べ歩きしたり。あとは、着物をレンタルして歩こうっていう話は出ています。でも着物も高いから、今友達と「一番安いプランでいいよね」って相談しているところです。

【インタビュアー】 「一番安いプラン」を検討されているのですね。今回のGWの予算全体としては、どのくらいを見込んで準備されたのでしょうか。

【対象者】 全部で3万円以内に収めたいなと思っています。宿泊費で6,000円、交通費が往復で2,000円ちょっと。あとの2万円強で、ご飯代と着物代と……ってお財布と相談しながら。3万円って、私にとってはバイト3~4日分なので、結構大きな出費なんです。

【インタビュアー】 バイト数日分の重みがある3万円という予算ですね。この予算を決めるにあたって、本当はやりたかったけれど諦めたことなどはありますか？

【対象者】 本当は、もっとちゃんとしたホテルに泊まって、ゆっくり朝ごはんとか食べたかったですよ（苦笑）。でも、GWってどこもホテル代が高すぎて……。1泊2万円とか普通にしないですか。それを払っちゃうと、現地でも何も食べられなくなっちゃうので、そこは速攻で諦めました。

【インタビュアー】 宿泊費を抑えることで、現地での活動費を確保されたのですね。続いて、少し先ですが夏休みの計画についても伺えますか？

【対象者】 夏休みは……旅行の予定はないです。実家に帰るだけです。

【インタビュアー】 夏は「帰省のみ」と決められているのですね。それは、何か理由があつてのことでしょうか。

【対象者】 単純にお金がないからです（笑）。GWに3万円使うと、夏の間まで貯める余裕がなくて。あと、夏ってどこに行っても暑いし、高いし、混んでるじゃないですか。だったら実家に帰って、地元友達とダラダラ過ごしたり、親にご飯食べさせてもらったりする方が、今の私には現実的かなって。

【インタビュアー】 「今の私には現実的」という言葉が印象的です。GWは旅行に行き、夏は帰省に留める。この「バランス」については、どのように考えて決められたのですか？

【対象者】 最初から「1年に1回、贅沢な旅行ができればいい方」って思っています。2025年の時も、1回だけ旅行に行ってあとはバイトと実家だったので。でも、2025年の時よりも今のほうが、コンビニのパン一つにしても「高くなったな」って感じるので、より「絞らなきゃ」っていう意識は強くなっているかもしれません。去年は「もうちょっと贅沢できたかな」って思ってたけど、今年は「これ以上は無理」っていうラインがはっきりしてる感じです。

【インタビュアー】 「これ以上は無理」というラインが、昨年よりも明確になってきているのですね。その「無理」と感じる基準は、具体的に生活のどういうところに現れていますか？

【対象者】 例えば……前なら「せっかくの旅行だし、特急に乗っちゃおう」とか思えたのが、今は「1時間くらいなら普通電車で座れなくてもいいや」って思うようになったり。あとは、SNSでキラキラした旅行投稿を見ても、「これはお金持ってる人のやつ」って、自分とは切り離して考えるようにな

りました。無理して背伸びしても、後で自分が苦しくなるだけだって、冷めてる自分がいるんですよ。

【インタビュアー】なるほど。ちなみに、他にも候補はあったと思うのですが、なぜ「鎌倉」に決まったのでしょうか？決めるまでのプロセスを教えてくださいませんか？

【対象者】最初は「ディズニー行きたいね」とか「韓国行きたいね」って話も出てたんですけど……。韓国はもう、航空券が高すぎて即却下でした。ディズニーも、チケット代に加えて中で食べるものとか考えたら、1日で1万5000円くらい飛ぶじゃないですか。だったら、同じくらいの金額で「1泊」できたほうが満足感高いよねってなって。

【インタビュアー】「1泊できる満足感」を重視して、日帰り圏内よりも宿泊を選ばれたのですね。その中で、熱海とか箱根とかではなく、鎌倉だった理由はありますか？

【対象者】うーん、一番は「自分たちでコントロールしやすいから」ですかね。箱根とか熱海って、どうしても「旅館」がメインになっちゃって、素泊まりでも結構高いんです。でも鎌倉なら、さっき言ったみたいに安くて可愛いゲストハウスが結構あるし、最悪、食べ歩きで食費も調整できるかなって。あと、江ノ電に乗ってるだけでも「旅行に来た感」が出るじゃないですか。

【インタビュアー】「自分たちでコントロールしやすい」というのは、具体的にどういうことでしょうか？

【対象者】何にお金を使うか、自分たちで細かく選べるってことです。旅館だと「1泊2食付きでいくら」って決まっちゃってますけど、鎌倉なら「夜ご飯はコンビニでいいよね」とか「その分、明日のカフェ代に回そう」とか、その場の気分とお財布事情で決められる。決められたパッケージにお金を払う余裕がないから、自分たちで安く済ませる余地がある場所じゃないと怖くて行けないんです。

【インタビュアー】「決められたパッケージにお金を払う余裕がないから、安く済ませる余地がある場所を選ぶ」……。今の生活感覚がよく反映されていますね。そのあたりの感覚は、一緒に行くお友達とも共通しているのでしょうか？

【対象者】そうですね。友達も同じような状況なので、「映える写真は撮りたいけど、無駄なお金は使いたくない」っていうのは一致してます。だから、インスタとかで「#鎌倉コスパ旅」みたいなタグでずっと調べてました（笑）。

【インタビュアー】ご自身でコントロールできる範囲を慎重に選んでいるからこそその「鎌倉」だったのですね。夏休みについても少し詳しく伺いたいのですが、ご実家はどちらのほうなんですか？

【対象者】実家は栃木です。北区からだと、それこそ普通列車を乗り継いで2時間くらいで帰れるので、交通費も往復で4,000円しないくらい。一番安く済む「旅行」って感じですね。

【インタビュアー】栃木なのですね。近すぎず遠すぎずという距離感でしょうか。帰省した際、地元の昔からの友達と会ったり、どこかへ遊びに行ったりという計画はなさそうですか？

【対象者】あー……。地元の友達とは、LINEで「帰るよ」って連絡はします。でも、どこかに遊びに行くっていうよりは、誰かの家に集まってダラダラ喋るのがメインになると思います。みんなそれぞれ大学とか仕事で忙しかったり、お金もそんなになかったりするんで……。

【インタビュアー】「誰かの家に集まって」というのが基本になるのですね。どこかのお店に行ったり、施設に遊びに行ったりということは、あまり考えないのでしょうか。

【対象者】考えないわけじゃないですけど、やっぱり「わざわざ外で集まる必要ある？」ってなっちゃ

うんですよね。カフェに入れば 1,000 円かかるし、車でどこか行くならガソリン代もかかる。だったら、実家で親が用意してくれたお菓子とか食べながら喋ってるのが一番気楽だし、お金もかからない。なんて言うか、今の私にとっての地元って「お金を使わずに済む安全地帯」みたいな感覚なんです。

【インタビュアー】「お金を使わずに済む安全地帯」。非常にリアルな感覚ですね。お友達との間でも、そういった「お金をかけない」という空気感は共有されているんですか？

【対象者】 そうですね。「映える」のは GW の鎌倉で一回やれば十分、みたいな。地元でまで見栄を張ったりお金を使ったりするのは、ちょっと疲れちゃうんですよね。みんな「今は貯める時期だよ」ってというのが、言葉にしなくても伝わってる感じがします。

### 3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】「地元は、お金を使わずに済む安全地帯」という言葉、今の生活を守るための大切な場所なのだと感じました。ありがとうございます。ここからは、少し視点を広げて伺いたいのですが、今後「こんな旅行をしてみたい」という理想や、やってみたいことはありますか？

【対象者】 理想……そうですね。いつか、お金のことを全く気にせずに、北海道とか沖縄に 1 週間くらい行ってみたいです。今は「1 泊 2 日で 3 万円以内」っていうガチガチの制限の中で動いているので、飛行機に乗って、現地の美味しいものを全部食べて、綺麗なホテルに泊まるっていうのが、今の私にとっては一番の贅沢というか、夢ですね。

【インタビュアー】「お金を気にせず、飛行機で遠くへ」というのが、今の制約がある中での理想なのですね。最近は「青春 18 きっぷ」で安く移動したり、あるいは YouTube の動画や VR などで旅行気分を味わう「デジタル旅行」といったものもありますが、そういった選択肢についてはどう思われますか？

【対象者】 18 きっぷは……正直、今の私にはちょっと「気力が持たない」かもしれないです。時間はありますけど、ずっと電車で揺られているのって意外と疲れるじゃないですか。それなら、さっきの鎌倉みたいに「近場だけ泊まりにする」ほうが、リフレッシュできる気がします。あと、デジタル旅行については、YouTube で綺麗な景色を見るのは好きですよ。寝る前とかによく見えます。でも、それはあくまで「動画」であって、自分の中では「旅行」とは全く別物です。

【インタビュアー】「動画」と「旅行」は全く別物、とのことですが、その違いはどこにあると感じていますか？

【対象者】 やっぱり「温度」とか「匂い」とかじゃないですかね。動画は「見てるだけ」ですけど、旅行は実際に歩いて、風を感じて、友達と「これ美味しいね」って言い合って……。そういう「体験」がセットになってるのが旅行だと思うんです。いくら映像が綺麗でも、画面越しじゃ「ストレス発散」にはならないかな。

【インタビュアー】画面越しでは得られない、その場での体験や感情の共有が、あなたにとっての「旅行」の本質なのですね。改めて、今のあなたにとって「旅行」という行為は、人生や生活の中でどのような位置づけのもの、あるいはどのような意味を持つものと言えますか？

【対象者】 うーん……「自分がまだちゃんと生きてるなって確認するための、数少ないイベント」って感じですかね。普段はバイトして、節約して、奨学金のことも考えて……って、ずっと将来への不安

とか「守り」の姿勢で生活してるんです。でも、旅行の間だけは、たとえそれが安宿だったとしても、「自分の好きなことにお金を使ってる」という感覚になれる。日常から抜け出すための、大事な出口みたいなものです。

【インタビュアー】 「自分がちゃんと生きていることを確認するための、大事な出口」。非常に重みのある言葉ですね。ただ、これから物価がさらに上がったり、将来的に奨学金の返済が始まったりと、経済的な制約は続いていくかと思います。そうした中で、あなたの「旅行」はどう変化していく、あるいはどうなっていくと思いますか？

【対象者】 ……もっと「回数」は減るんだろうな、と思います。今は学生だからまだいいけど、社会人になったらもっと税金とか引かれるんですよね。そうすると、今みたいに年に1回、2回行くのも難しくなるかもしれない。理想は「もっと遠くへ、もっと贅沢に」ですけど、現実には「3年に1回、必死に貯めてやっと思行ける」みたいな感じになりそうな予感がしています。

【インタビュアー】 「回数が減り、より必死に貯めて行くものになる」という予想ですね。その未来に対して、ご自身ではどう感じていらっしゃいますか？

【対象者】 寂しいし、ちょっと虚しいです。普通に働いてるのに、旅行に行くのさえこんなに覚悟がいるなんて、なんだかなあって。でも、それが「普通」の時代なんだって自分に言い聞かせてる部分もあります。周りもみんなそうですし。

【インタビュアー】 寂しさや虚しさを感じつつも、それが当たり前だと受け入れようとしてられているんですね。そんな厳しい制約が予想される未来において、これだけは譲れない、これだけはやりたいと思う「旅行のこだわり」は何かありますか？

【対象者】 「一人では行かない」ことですかね。もし、本当にお金がなくて、一生に一度しか旅行に行けないってなっても、絶対誰かと一緒に行きたいです。一人で豪華なホテルに泊まるより、ボロい宿でもいいから、気心の知れた友達とか大切な人と「大変だね」と言いながら笑ってる方が、私にとっては価値がある。「どこに行くか」よりも「誰と、どんな記憶を残すか」ということだけは、どんなに物価が上がっても捨てたくないです。

【インタビュアー】 「自分がまだちゃんと生きてるなって確認するため」という言葉、すごく重みを感じました。ただ、あえてお聞きしたいのですが、20歳のあなたが「ちゃんと生きてるなって」と感じるのは、少し言葉として大きすぎるというか、大袈裟な感じもしてしまうのですが……そのあたり、もう少し詳しく教えていただけますか？

【対象者】 あはは、そうですね。大袈裟に聞こえますよね。でも、私の中では結構本気で。……なんて言うか、毎日、朝起きて学校に行って、実習で先生に絞られて、その足で夜までバイトして。家に帰ったら、明日のために安い食材で自炊して、家計簿つけて、また寝る。これの繰り返しなんです。

【インタビュアー】 「繰り返し」の毎日。その生活の中に、どのような感覚があるのでしょうか。

【対象者】 なんて言うか、「生きてる」というより「こなしてる」だけ、みたいな感覚になるんですよ。将来の奨学金の返済とか、物価高とか、そういう「将来の不安」のために、今の自分をずっと削って、ルールの中に閉じ込めてる感じ。一步でも踏み外したら生活が壊れるっていう緊張感が常にあって。

【インタビュアー】 「こなしている」感覚と、一步も踏み外せない緊張感。

【対象者】 はい。だから、鎌倉に行って海を見て、自分の意思でお金を使って、友達と笑ってる時間だ

けは、その「将来のためのルール」から一瞬だけ解放されるんです。「あ、私、ただの『節約するマシン』じゃなくて、ちゃんと自分の人生を楽しめる人間だったんだ」って思える。それが、私にとっての「ちゃんと生きてる」っていう実感なんです。これがないと、何のために今こんなに切り詰めて頑張ってるのか、分からなくなっちゃうので。

【インタビュアー】 ありがとうございます。よくわかりました。

もう一つ、先ほど「映えるのは鎌倉で一回やれば十分」とおっしゃっていたのですが、旅行において「映える」ということは意識されるのでしょうか？ 撮った写真は、どこかにポストしたりするんですか？

【対象者】 あ、はい。インスタのストーリーには絶対あげますね。投稿（フィード）に残すかはその時の写真の出来次第ですけど、ストーリーは「今、ここに来てるよ」っていうのをリアルタイムで載せたいです。

【インタビュアー】 「ストーリーには絶対あげる」のですね。それは、こういった理由や気持ちからなののでしょうか。

【対象者】 うーん……なんでだろう。やっぱり、普段が地味すぎるからですかね（苦笑）。さっき言ったみたいに、毎日のバイトと自炊の繰り返しだと、SNSに載せられるようなことって何もないんですよ。でも、旅行の時くらいは「私もちゃんと大学生らしいことしてるよ」っていうのを、誰かに、というか世の中に見せておきたいのかも。

【インタビュアー】 「大学生らしいことをしている」という姿を世の中に見せておきたい。その「映え」のために、何か工夫したり、逆に「これはしない」と決めていることはありますか？

【対象者】 工夫というか……鎌倉で着物を借りるのも、正直「映え」のためだけです。着物を着て、江ノ電と一緒に撮ったり、お寺の緑を背景に撮ったり。そのためだけに数千円払うのは高いなとは思いますが、これがないと「ただの散歩」になっちゃう気がして。でも、食事は「見た目だけで高い店」には行かないです。カフェも、ドリンク一杯で粘れるところとか（笑）。「映え」はコスパ良く、でも確実に押さえたい。背景さえ良ければ、1,000円のラテでも5,000円のランチでも、スマホの画面越しならそんなに変わらないじゃないですか。

【インタビュアー】 「背景さえ良ければ、画面越しなら変わらない」。非常に徹底した「映え」の捉え方ですね。そうやってポストした後の、周りからの反応などは気にされますか？

【対象者】 「いいね」がついたり、DMで「どこ？」「可愛い！」って言われると、やっぱりホッとします。あ、私、まだこっち側の世界に置いていかれてないな、みたいな。でも、あんまりやりすぎると「金持ち自慢」みたいに見えて痛いのも分かってるので……。だから「#コスパ旅」とか「#学生旅行」みたいなタグをつけて、「頑張ってやりくりして来ました感」は出すようにしています。その方が、今の自分には合ってるし、周りの友達も反応しやすいみたいなので。

【インタビュアー】 ご自身の中にある「置いていかれたくない」という切実な思い、伝わってきました。ただ、SNSにアップして反応を気にするのは、少し疲れてしまう部分もあるのかなとも感じたのですが……。例えば、撮った写真をSNSにポストせず、自分たちだけの思い出としてスマホのフォルダに保存して眺めるだけ、という選択肢についてはどう思いますか？

【対象者】 うーん……。もちろん、自分でも見返しますし、友達と後で「これ楽しかったね」ってLINEで送り合ったりもします。でも、それだけだと何か「足りない」んですよ。

【インタビュアー】 「足りない」というのは、具体的にどういう感覚なのでしょう。

【対象者】 なんて言うか……さっき言った「大学生らしいことをしてる証明」にならないから、だと思います。誰にも見せない旅行って、私の中では「なかったこと」に近くなっちゃうとか。自分だけで「楽しかった」って思っているけど、それを外側に発信して、誰かに認められないと、自分の「まともさ」が保証されない気がしちゃうんです。

【インタビュアー】 誰かに認められないと「まともさ」が保証されない、ですか。

【対象者】 はい。今の時代、SNS をやってるのが当たり前じゃないですか。そこで何も発信してない人って、すごく充実してるか、逆に、何も書くことがないくらい落ちぶれてるかのどっちかに見えちゃう。私は前者にはなれないけど、後者だと思われたくないんです。だから、3万円かけて鎌倉に行くなら、その価値をちゃんと「大学生としての市場価値」みたいなものに変換しておかないと、もったいないって思っちゃいます。ちょっと冷めた言い方ですけど、私にとって SNS は日記じゃなくて、生存確認の報告書みたいなものなんだと思います。

【インタビュアー】 本日は、日々の生活のことや旅行に対する率直なお考えを詳しくお聞かせいただき、本当にありがとうございました。お話しいただいた内容は、非常に貴重な参考になりました。これでインタビューを終了させていただきます。お忙しい中、ありがとうございました。

【対象者】 あ、はい。こちらこそ、ありがとうございました。失礼します。